

## 2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

ふり 氏 がな 名	はやかわ みあき 早川 美晶
(研究テーマ名) 『新バシレイオス伝』に見る死生観と 10 世紀コンスタンティノープル社会	
(研究活動実績) <p>10 世紀のコンスタンティノープルを舞台とする聖人伝『新バシレイオス伝』(11-13 世紀成立)の解読作業を中心に、東方正教会文化圏で発展した「死後の世界」観念に関する調査を行った。また『新バシレイオス伝』に収録される物語「テオドラの死について」「グレゴリウスの目撃」の内容がポスト・ビザンティン美術 (15 世紀後半以降の東方正教会美術) に反映される様相について、調査検討を行った。絵画主題《関所》ならびに《最後の審判》が主な調査対象である。</p> <p>私事の事情により調査活動が順調であったとは言いがたい。研究会や学会で公表できる段階まで成果をまとめられず残念である。しかし上記の調査作業に並行して学会や研究会を聴聞し、さらに関西地獄会 (主に日本仏教美術、文学を研究する研究者により構成される、他界観およびその表象を考察する研究会) の運営に参加し、他地域・時代の死生観を研究する研究者と交流したことで知見を進展させることができた。今後の活動への糧としたい。</p> <p>なお「テオドラの死について」(あらゆる人間に対して死後行われるという「関所」での「この世」の所行の取り調べを、テオドラという人物が体験する物語) の分析によって得られた知見をふまえ、ポスト・ビザンティン美術で見られる絵画モチーフ「関所」を分析した論考を現在 (3 月 10 日) 執筆中である。</p>	